

■『十訓抄』「大江山」 評価の観点

評価規準	評価基準		
	A【十分満足】	B【おおむね満足】	C【改善の手立て】
1 知識・技能			
古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕	本文を正確に現代語訳できている。	本文をおおむね現代語訳できている。	特に助動詞や敬語について、辞書や文法テキストで確認させる。
2 思考・判断・表現			
「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。〔A(1)ウ〕	『十訓抄』の構成と標題について十分理解し、本文の収録意図を根拠立てて推測できている。	『十訓抄』の構成と標題についておおむね理解し、本文の収録意図を推測できている。	十の標題を列挙したうえで解釈させ、本文がどれに最もあてはまる説話を考えさせる。
3 主体的に学習に取り組む態度			
積極的に説話が示す教訓性について考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	主体性をもって周囲と協調しながら粘り強く話し合いに取り組んでいる。	学習課題に従って粘り強く話し合いに取り組んでいる。	周囲の考えを参考にしながら話し合いに参加するように促す。